

### 鷓無ヶ淵公園・消防訓練所

この2つの施設は、昭和 63 年に移転新築となった吉永第二小学校跡地に建設されたもので、公園では毎年地区の「菜の花の里祭り」が年中行事として3月に開催されています。地元民の育てる「菜の花」と河津桜の共演が見事です。

### 馬頭観音

吉永北地区は、道が狭く坂道も多く、人馬ともに農作業や荷物の運搬には苦勞しました。大切な馬が死んだときは丁寧に供養し、馬頭観音を建てました。

### 桑崎 庚申塔 (舟形光背青面金剛立像)

文政 5 年 (1822) 建立、この石像は一面六臂で、顔は一面で腕は 6 本 (六臂) 持ち、両手第一手は中央で合掌し、左第二手は一輪の花を、左第三手はユミを持ち、右第二手は剣を、右第三手は三又の鉾をもっています。

この庚申塔は以前はすぐ前の道路脇にあって木造の小屋に祀られ、桑崎地区の庚申待ちの行事を支えていたようです。そのほか鷓無ヶ淵や石井の集落でも庚申講が行われていました。庚申の日は、婦人たちが講を催しお堂にこもって、読経するなどして一夜を過ごす風習がありました。

### 桑崎の善光寺

佐藤一族が信仰していた甲府の善光寺を勧請して建立されたものであり、阿弥陀如来をご本尊として、三尊像が安置されており、毎年 4 月 14 日に祭典が行われています。境内には馬頭観音、万霊塔など多くの石碑が建立されています。

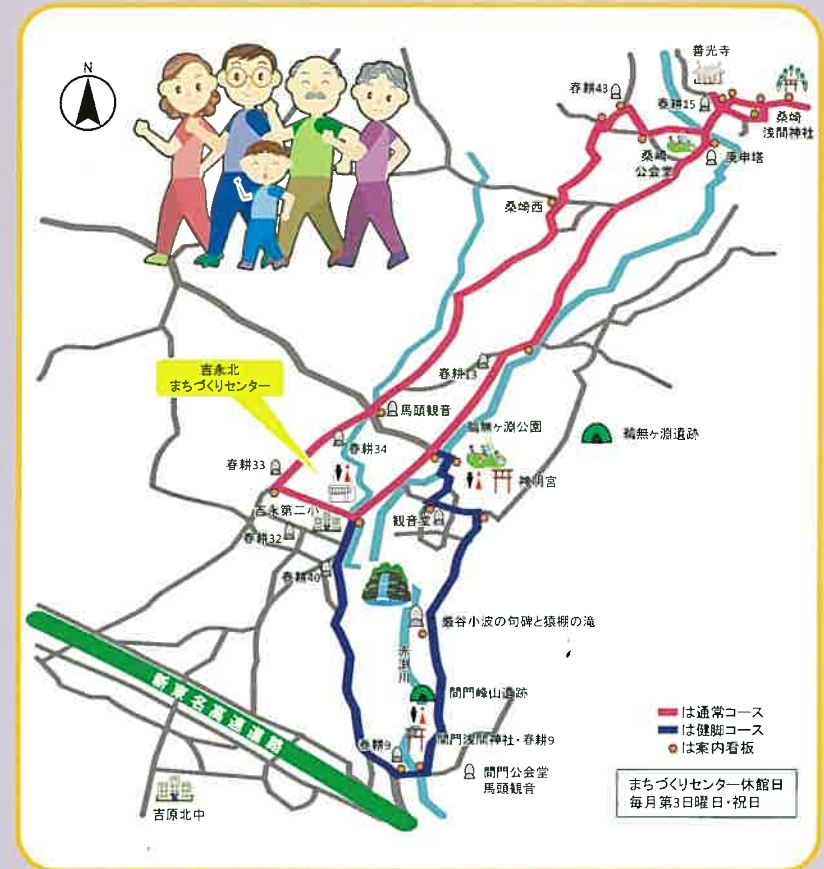
### 桑崎浅間神社

愛鷹山の山腹にあり神社の前には赤淵川が流れています。老樹がうっそうとして静けさを作り出しています。境内の由来の碑には享保 5 年 (1720) ごろの創建とされています。その後、幾度か台風などの災害を受けるも修復を重ねて現在に至り、昭和 60 年、本殿・拝殿を新築し、境内の整備がなされています。

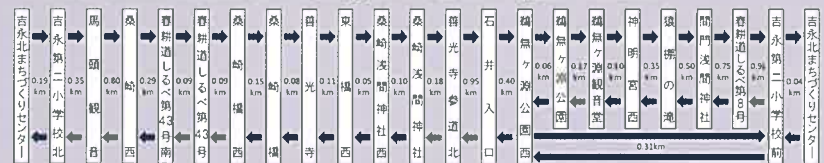
コース解説協力：吉永郷土研究会

# 歩く健康づくり一万歩

## 吉永北「みちしるべと史跡めぐり」コース



● 吉永北「みちしるべと史跡めぐり」コース 全長通常コース約 4.2km・健脚コース約 6.8km



富士市

## 〈コースのごあんない〉

吉永北まちづくりセンターを起点、終点とした、全長約 4.2 km の通常コース（所要時間 1 時間程度）と、体調や体力によってお楽しみいただけるよう、全長 6.8 km の健脚コース（所要時間 2 時間程度）も設置しました。愛鷹山西麓に広がるこの地区は、愛鷹山から流れる赤淵川あかぶらがわに、富士山から流れる千束川せんそくがわが桑崎地区で合流し、急峻な、そしていくつかの支流を合わせながら、大小の見事な滝を作り、吉永地区へと流れ下ります。

この地区には、旧石器時代の遺跡いせきである峰山遺跡みねやま いせきが発見されていることから、赤淵川の豊富な水と温暖な気候に恵まれ、早い時期から人びとが生活を始めたようです。

## 〈コース周辺の見どころ〉

### 仁藤春耕のみちしるべ

仁藤春耕は富士岡の農家に生まれ、日清日露の戦役に出征できなかったことを残念に思っ道しるべの建立を思い立ち、明治 39 年から明治 43 年にかけて東海道から吉永地域の山道を通り御殿場滝ヶ原不動尊まで 130 基を建立したといわれています。今私たちがこのコースで目にできるのは 5 箇所と思われていますが、一人で建てたその底知れない精神力と社会奉仕の信念を称えたいと思います。

### 間門浅間神社

この神社は赤淵川と東沢の深い渓谷に囲まれた地にあり、古くから砦が築かれたと伝えられています。神社周辺からは旧石器時代から弥生時代に至るまでの遺跡や色々な出土品が発見されています。物見塚、城前、同勢、見返しなどの地名も残っており、古くから重要な拠点であったと推測されます。そのため当社の創建は古く、静岡県神社庁の神社明細帳には承安年間（1171～1175）と記されています。

### 間門峰山遺跡（遺跡の時代：旧石器～弥生時代）

いまから一万五千年ほど前の旧石器時代といわれる頃、人びとはいまだ土器を作ることを知りませんでした。この頃、愛鷹山には、多くの人々が住んでいました。

この時代は、「氷河期」と呼ばれる寒い時期が終わるころで未だ寒く、愛鷹山も現在よりも険しく、富士山も古富士と呼ばれる別の形をした山でした。浮島沼も、

富士市に広がる平野も海であり、駿河湾の一部でした。

人びとは、この愛鷹山の中腹、時には遠く伊豆、信濃までもでかけていき、生活に必要な食料や道具の材料を集めていました。

この峰山遺跡からは、黒曜石などから作られた「ナイフ形石器」や「小型石刃」と呼ばれる石器が発見されており、これらの道具で食料となる木の実や植物の根の採取、さらには狩猟に使う道具を作りました。これらの道具を使い、シカやイノシシなどを狩っていたものと思われま

### 巖谷小波の句碑と猿棚の滝

「大瀧や 猿が塙の 玉簾」

巖谷小波先生は明治から昭和にかけて活躍された児童文学の創始者で御伽噺をまとめたり、唱歌「ふじの山」「一寸法師」などを作詞した時の文壇の第一人者でした。

大正 10 年 9 月 11 日吉永北地区の住民たちは、鶴無ヶ淵尋常小学校で巖谷小波御伽噺口演会を開きました。馬にゆられてきた先生は猿棚の滝を左手に見てこの句を詠まれました。住民たちはこの記念として、大正 10 年に先生直筆の句碑を建てました。更に小学校入り口付近で詠まれた句「鞍に伏し 柿の下行く 小路かな」は平成 11 年 9 月、現在の吉永第二小学校正門の横に句碑が建立されました。

### 鶴無ヶ淵 神明宮

天照大御神を御祭神としており、由緒によると、建久 4 年（1193）源頼朝公富士の巻狩りの時、北条時政が神殿改築の費用を寄進したと伝えられており、創建は建久年間以前とされています。

拝殿の右側に文化 6 年（1809）正月 30 日奉納の手水鉢、天保 7 年（1836 年）4 月奉納の常夜灯も見ることができます。境内に至る長い石段も見事です。また、今から 400 年さかのぼる（江戸時代初期）神楽は代々鶴無ヶ淵地区の人々に受け継がれ、毎年 7 月 16 日の観音さん、神明宮のお日待ちの夜をはじめ富士市の郷土芸能としてさかんに舞われています。